

みんなの輝き

ある中学校では、もうすぐ開催される体育祭に向け、どのクラスも優勝をめざして、熱のこもった練習が行われています。

この中学校では、「クラス対抗大縄跳び」を、『決められた時間内に跳んだ回数×跳んだ人数、で全クラスの順位をつける』というルールで競い合います。

放課後になると毎日練習をしているクラスがあるのですが、縄跳びの苦手な人もいて、なかなか記録が伸びません。そこで、どうすれば大縄跳びで優勝できるのか、クラスのみinnで話し合うことにしました。

ある一人の生徒が言いました。

「なあ、縄跳び苦手な人は、応援だけにしたらどうやろ。」

すると他の生徒たちからも、次々と声が上がりました。

「そう！得意な人だけで跳んだら、ぜったい他のクラスに負けへん！」

「それ賛成！縄跳び苦手な人も、そのほうがうれしいんと違う？」

「本当にそれでいいのかな・・・」

中には疑問をもつ生徒もいましたが、次の日から縄跳びの苦手な人を応援役にして練習が始まりました。

「せえ～の、1、2、3、・・・」

「応援もがんばって声出してよ。」

「うん、がんばって声出してるけど・・・」

その後も練習に励むのですが、クラスがもう一つ盛りあがりません。

そんなとき、生徒の一人が言いました。

「やっぱり、大縄跳びはみんなで跳ばへんと、クラス全員で跳んだことにならんのと違うかなあ？」

「実は、私も同じことを思ってたんや。跳んでない人がいると気になって、かえって力がでえへんわ。やっぱり、みんなで跳んでみようよ。」

「そうやなあ・・・。やっぱり、みんなで跳ばんと意味ないんと違うかなあ・・・」

「でも、縄跳びの苦手な人がいたら、たくさん回数跳べへん！」

「跳ぶ場所とか工夫してみたら、いいんと違う？みんなで跳んだ方が、ぜったい力が出るって！」

「よし、やっぱりみんなで跳ぼうや！」

それから、またクラス全員で大縄跳びの練習をすることになりました。

「ごめん、また引っかかって・・・」

「いいから。もうちょっと早めに跳びや。」

「真ん中と端を入れ代わってみたらどうや？」

「もうあかん。しんどいわ。」

「がんばろ、がんばろ。縄を回す人を見て跳ぶんや。」

そして、体育祭当日。

このクラスは、大縄跳びで優勝できませんでした。けれども、退場時の一人ひとりの顔はとても満足そうでした。優勝よりももっと大切なものを、クラスのみinnで見つけることができたようです。